

★聖書朗読…ルカによる福音書2章8節～16節、20節
〈8節～16節〉

その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼いの葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」

天使たちが離れて天に去ったとき、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださったその出来事を見ようではないか」と話し合った。そして急いで行って、マリアとヨセフ、また飼いの葉桶に寝かせてある乳飲み子を探し当てた。

〈20節〉

羊飼いたちは、見聞きしたことがすべて天使の話したとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰っていった。

★メッセージ…

「期待はずれの贈り物」

日本基督教団中標津伝道所牧師 石垣弘毅

今から30年以上前のクリスマスの頃、私は「卒業論文の提出」という大きな課題を前にクリスマスを楽しむ余裕はなく、「論文が書けない」というあせりと不安で一杯の毎日を過ごしました。

北星学園に連なる学生の皆さんはどんな日々を過ごされているでしょうか。2020年1月に始まったコロナ禍が拡大する中で、学園生活や就職の事などでの不安が重くのしかかっているのではないのでしょうか。

さて、クリスマスはキリスト教では、神様からの大きな贈り物をいただく喜びの記念日です。聖書によると愛の神様が私たちに最高の贈り物、イエス様を救い主として贈ってくださいました、というのです。

今から2千年前、ユダヤの国はローマ帝国の支配下にありました。当時のユダヤの人々が期待していたものは、「ローマ帝国を打ち負かし、ユダヤの国を再建してくれる強力な救い主（メシア）」でした。ところがその期待はずれ、与えられたものは「飼いの葉桶で生まれた無力な赤ちゃん」でした。

皆さんはどんな贈り物（メシア）を待ち望みますか。コロナ禍を一気に解決してくれ

る人、それとも卒業論文や将来の就職先を希望どおりに叶えてくれる頼もしい指導者でしょうか。もし皆さんが当時のユダヤの人々だったとしたら、与えられた贈り物が赤ちやんだったら、きつと失望し悲しい思いで帰って行くにちがいありません。

ところが、喜んで帰っていった人々がいました。それが羊飼いの少年たちです。彼らは経済的にも貧しく、社会から排除され、軽蔑され、無視された人たちでしたが、それらの課題が解決したからではありません。彼らは大きな喜びに包まれて、あの厳しく辛い羊飼いの現場に帰っていきました。

彼らはなぜ喜んで帰って行ったのでしょうか。

彼らは見ました。たくさんの天使たちが彼らを囲み、安全といのちを守り、導いていてくれていたことを。

そして聴きました。「大丈夫。恐れることはない。愛の神はあなたがたを離れることは絶対にない。だから安心して行きなさい」という神様が語りかける声を。

彼らが家畜小屋で見つけた赤ちやんは、彼らが見たもの、そして聴いた声が本当のことであった事の確かなしるしだったのです。

神様は時に「何でこんなものが」としか思えない期待はずれの贈り物を私たちに差し出されます。「コロナ」は私たちにとって禍としか思えないかもしれませんが、しかし、そんな期待はずれの出来事や物事の中に神様は素晴らしい宝物を備えてください。今年のクリスマス、あの羊飼いの少年たちのように、コロナ禍の中で、勉強に励み、卒業、就職の準備に奮闘されている皆様に、天使の大軍が現れ、「恐れることはない。安心して行きなさい」との愛の神様の確かな声を聞いて、喜んで自分の置かれた持ち場に帰っていくことができますように、道東の酪農の町、中標津からお祈りいたします。

アーメン